

教育研究上の目的

食物栄養学科は、人間栄養学に基づいた食・栄養・健康に関する専門的知識・技能と企画力・実践力を備え、人々の生涯にわたる健康と幸福の実現のために社会に貢献できる人間性豊かな食・栄養・健康の専門家を養成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

食物栄養学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 科学的根拠に基づく食・栄養・健康に対する識見を備え、人々の【健幸】の実現に寄与できる力を備えている。
2. 関係者と連携・協働して、一人一人により添った適切な栄養管理・栄養教育を実践できる力を備えている。
3. 食・栄養・健康の問題を解決するために、社会的視野と倫理観をもった栄養の専門職として取り組むことができる力を備えている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 食・栄養・健康に関する科学的な根拠に基づいた基礎知識、専門知識を修得している。
2. 食を通してヒトをみる専門家として、一人一人の主体性を尊重したコミュニケーションを図る力を備えている。
3. 社会の構造や変化を理解し、食・栄養・健康に関わる問題を発見する力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. 食・栄養・健康に関心を持ち、科学的に思考・判断・表現する力を備えている。
2. 食を通してヒトをみる専門家として、広い視野と豊かな人間性を備え、一人一人の多様な価値観やニーズを理解する力を有している。
3. 食・栄養・健康に関わる問題に対して、倫理観を持った専門職業人として、解決策を立案する力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1. 向上心をもち主体的に行動する意欲と態度を身につけ、生涯にわたり研鑽していく態度を有している。
2. 対象者の主体的な意思決定を尊重し、関係者と連携・協働して栄養管理に取り組む力を有している。
3. 食・栄養・健康の諸課題の解決に向けて、使命感をもって実践する力を備えている。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

食物栄養学科では、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、確かな栄養管理ができる人材の育成を教育研究上の目的としている。そのため、基礎的な内容から総合的・統合的な内容へ、順次学修を発展させるカリキュラムとして、専門基礎領域・応用領域・展開領域・実践領域の4領域を設定している。

専門基礎領域；社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康

応用領域；基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論

展開領域；臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論

実践領域；総合演習、臨地実習、卒業研究

さらに食物栄養関連科目として、より専門性の高い講義や演習科目を配置する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

社会・環境と健康

1. 公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論分野における専門的な知識・技術を修得する。
2. 社会の構造や保健・医療・福祉制度を理解し、統計資料や健康情報を通して、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる考え方を身につける。
3. 将来のリーダーとなるために、主体的に学び、他者と協力しながら物事を進められるスキルを身につける。

人体の構造と機能及び疾病の成り立ち

1. 解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて、科学的視点から説明することができる。
3. 専門職として必要な倫理観を理解し、主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。

食べ物と健康

1. 食品学、調理学、食品衛生学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2. 食べ物と健康分野における基礎知識に基づき、実験・実習を通して食品の利用法や食の安全について、科学的視点から説明することができる。
3. 専門職としての能力を修得するために、常に新しい知識を主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。

基礎栄養学

1. 基礎栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2. 栄養の基本的概念、栄養素の代謝とその生理的意義等について、科学的視点を持って説明することができる。
3. 専門職としての能力を修得するために、主体的に学び続ける意欲と態度を身につける。

応用栄養学

1. 応用栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2. 食事摂取基準策定の考え方を理解し、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について説明することができる。
3. 一人一人に合わせた栄養ケア・マネジメントを実践するために、専門職として生涯にわたり研鑽する態度を身につける。

栄養教育論

1. 栄養教育分野における専門的な知識・技術を修得し、対象者の主体性を尊重したコミュニケーションを図ることができる。
2. 対象者の多様な価値観やニーズを理解し、問題の解決策を立案し支援することができる。
3. 使命感をもって栄養教育を実践する力と、専門職として生涯にわたり研鑽する態度を身につける。

臨床栄養学

1. 傷病者及び要介護者に対する栄養管理に関する専門的な知識・技術を修得する。
2. 専門職として高い倫理観を備え、傷病者及び要介護者の栄養に関連した問題に対して論理的に思考し、適切な解決策を提案する能力を養う。
3. 傷病者及び要介護者一人一人の多様性を理解し、個々人の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理を他者と協調しながら主体的に取り組む力を習得する。

公衆栄養学

1. 公衆栄養学分野における専門的な知識・技術を修得する。
2. 地域診断を通じた地域・集団における人々の健康・栄養状態及び社会・生活環境の特徴に基づいた問題の解決策を立案する力を身につける。
3. 地域や社会の栄養に関連した問題に対して、主体的に地域の関係者と連携・協働して公衆栄養活動に取り組む力を養う。

給食経営管理論

1. 給食の運営及び給食経営管理における専門的な知識・技術を修得する。
2. 給食の運営及び給食経営管理に関わる問題に対して、科学的に思考・判断し、解決策を立案する力を身につける。
3. 対象者の多様な価値観やニーズを理解し、主体的に関係者と連携・協働して給食のマネジメントを実践する技術と能力を身につける。

総合演習

1. 各領域で学んだ知識を統合して、管理栄養士に求められる実践的な知識、技能を修得する。
2. 実践活動の場での課題の発見・解決を思考・判断する力、実習終了後に臨地実習で取り組んだことや学んだことをまとめ、発表する技術を習得する。
3. 臨地実習において主体的に学ぶ姿勢、多職種協働を理解し、管理栄養士として研鑽する意欲と態度を養う。

臨地実習

1. 管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養い、他職種や対象者とのコミュニケーションを図ることのできる力を身につける。
2. 管理栄養士として必要な専門的な知識と技術を統合し、実践活動の場での課題発見、問題解決のための思考を修得する。
3. 管理栄養士として社会に貢献する視点を育み、課題解決にむけて使命感をもって実践する力を身につけ、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を養う。

卒業研究

1. 科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う。
2. 自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を身につける。
3. 食と栄養を通し、人々の健康に貢献するため、課題解決能力と実践力を修得し、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を養う。

食物栄養関連科目

1. 高い専門性の基盤となる幅広い知識、また多分野にまたがる食・栄養・健康問題について国際的な視点とともに見識を広げ、管理栄養士が果たす役割を多角的に理解することができる。
2. 食・栄養・健康問題に関する人々の多様な価値観やニーズを理解し、管理栄養士として具体的な解決策を提案する能力を習得する。
3. 複雑化した社会における食・栄養・健康問題に対し、管理栄養士の専門性を発揮しながら分野を超えて連携・協働・調整し、解決に導く力を習得する。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

食物栄養学科では、食・栄養・健康に関心を持つ、次のような学生を求める。

1. ヒトや課題について科学的視点に立ち、理解をしようとする意欲がある。
2. 人々の幸せに寄与し、社会に貢献したいという意欲がある。
3. 倫理観と責任感をもって、協調しながら問題を解決しようとする意欲がある。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 食・栄養・健康に関心を持ち、管理栄養士として必要な知識を理解するための、高校までの基礎的学力を有している。
2. 他者を理解し、思いやる力を有している。
3. 多角的に物事を捉えようとする力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. 食・栄養・健康に関心を持ち、自分の考えを、的確でわかりやすい文章や言葉で伝えることができる。
2. 他者を尊重する態度が見られる。
3. 課題や問題点を見つけ、改善するための考えを伝えることができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 食・栄養・健康に関心を持ち、向上心を持ち、主体的に取り組むことができる。
2. 集団の中で自分の考えを他者に伝えることができる。
3. 課題に対して改善のための行動を実践したことがある。